



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Winter 2010 Vol.11, No.1

「日・ASEAN対話」開催 金融・経済危機下の日・ASEAN協力

当フォーラムは、ASEAN戦略国際問題研究所連合 (ASEAN-ISIS) との共催、日本アセアンセンターとの協力により、東京において、第8回「日・ASEAN対話：金融・経済危機における日・ASEAN協力」を開催した。

日本、ASEAN双方より総勢104名が参加し、9月10日の開幕夕食会から、11日の公開対話「本会議Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」、懇談夕食会を経て、12日の非公開「政策提言起草会合」まで、多彩な「対話」が展開された。



本会議会で議論する参加者たち

国別の現状と対応

今次「対話」では、昨今の世界的な金融・経済危機が、日本とASEAN諸国にいかなる影響を与えたかを確認するため、本会議Ⅰ、Ⅱで「各国別の金融・経済危機の現状と対応」について、各国から報告が行われた。

①「日本では、金融システムへの影響は限定的であったが、実体経済では歴史的な悪化を示した」(内田和人三菱東京UFJ銀行企画部経済調査室長)

②「ブルネイの通貨リスクは低く、金融危機の影響も少なかった」(テオ・シュウ・イェン・ブルネイ・ダルサラーム大学講師)

③「カンボジア経済の3つの柱である衣料・観光・農業が打撃を受けた」

(チェーン・ヴァナリット・カンボジア平和協力研究所所長)

④「インドネシアは、金融・経済危機の影響は比較的穏やかであったが、経常収支の赤字とそれに伴う国際収支の悪化が問題化した」(レイモンド・アチェ・ホマウ・インドネシア戦略国際問題研究所経済部長)

⑤「ラオスは、海外からの投資プロジェクトの遅れや、鉱物資源や農産物の輸出需要の低下で、歳入が減った」(マライヴィエン・サコンニンホム・ラオス国際問題研究所所長)

⑥「マレーシアでは、当初、影響が小さかったが、その後、影響が深刻化している」(マハニ・ザイナル・アビディン・マレーシア戦略国際問題研究所所長)

⑦「ミャンマーは直接的影響はなかったが、近隣諸国からの間接的な影響として貿易、投資、観光業の停滞がみられた」(タン・タン・テイ・ミャンマー戦略国際問題研究所代表)

⑧「フィリピンの対応は、通貨面での対応が中心だったが、財政が比較的健全であったため、深刻な影響は免れた」(レナート・E・リザイド・ジュニア・フィリピン大学経済学部准教授)

⑨「シンガポールは小規模開放型の経済で、国際的な景気後退に弱く、需要の低下により輸出部門が打撃を受けた」(サイモン・テイ・シンガポール国際問題研究所会長)

⑩「タイの今回の危機への対応は、官僚主導型の財政政策であり、政治家のイニシアチブが十分活かされていない」(イスラ・サーティサート・チュラーロンコーン大学開発政策研究所会長)

⑪「国内経済がより開放的になった結果、世界的な金融・経済危機はベトナムにも大きな影響を与えることとなった」(グエン・マイン・クオン・ベトナム外務省外交戦略研究所所長)

金融・経済危機下の協力

つづく本会議Ⅲでは、「金融・経済危機における日・ASEAN協力」が議論され、まずスンドラン・プシュパナータンASEAN事務局次長より「各国の措置を超えて、ASEAN地域として政策協調が行われたことは特記に値する。今後重要なのは、東アジアが共同責任で対策をとろうとする意思である」との、ついで河合正弘アジア開発銀行研究所所長より「アジアの市場統合、地域的な金融アーキテクチャーの構築などを通じて、アジア各国が域内での需要を喚起し、同時にみずからの生産を増大することが重要だ」との基調報告があった。

政策提言起草会合

翌12日には、具体的な「政策提言」を起草するための「政策提言起草会合」が非公開で開催された。「政策提言」は、当フォーラムおよびASEAN-ISIS加盟各研究所よりそれぞれ日本、ASEAN各国政府に提出された。

なお、この「対話」の議事録を載せた『報告書』も作成されており、ウェブ (<http://www.gfj.jp>) 上でアクセス可能である。



提言起草会合議長を務める伊藤憲一執行世話人 (中央)

議論百出から

当フォーラムのホームページ (<http://www.gfj.jp>) 上の政策掲示板「議論百出」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

外務官僚の信念と気骨が問われる

政治評論家 杉浦 正章

民主党圧勝で「脱官僚支配」の宣伝文句が霞が関を徘徊(はいかい)している。霞が関に動揺が広がり、新政権になびき始めた官庁も出ているが、信念をもって日本の政治を担ってきた官僚も多いはずである。とりわけ外交・安保問題が重要である。民主党の言うままになれば、明らかに日米安保体制の基軸が崩れかねない危険性を内包している。北朝鮮という危険きわまりない存在により、安保体制の絆はむしろ強化されなければならない時にである。外務官僚は、国益を毀損するような首相・鳩山由紀夫の方針が出されれば、毅然として職を賭してでも、信念を貫いてほしい。

核密約問題を調査すること自体には

問題はないが、民主党の左派や連立の相手である社民党が「非核3原則の法制化」を唱え、これに鳩山が検討を約している問題は見逃せない。調査の次には、「核の存在を明示しない」という米国の国是に真っ向から立ち向かう「3原則法制化」が待ち構えているのだ。ワシントン・ポスト紙がいみじくも「経験が乏しい政治家」と指摘するように、鳩山は外交・安保問題への理解が乏しい。外務官僚は民主党政権に迎合してはならない。「保身」に走るべきではない。いまこそ辞表を懐にして、首相に正論を述べる気骨をもつべきである。それこそが官僚として国民の負託に応える道である。

(2009年9月2日付投稿)

最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- 11/26 『『イスラム原理主義は過激派』ではない』(石川純一)
- 11/16 「オバマ大統領初来日に思う日米同盟の原点」(若林秀樹)
- 11/6 「日本航空をなぜ特別扱いするのか?」(入山映)
- 10/27 「国際化されるインターネット・ガバナンス」(内海善雄)
- 10/26 「鳩山政権の東アジア共同体構想と中国、米国の反応」(大河原良雄)

- 10/18 「『平和の戦士』を顕彰することには意味がある」(猪野塚雅代)
- 10/17 「ノーベル平和賞は、もともと『政治的』な存在である」(中牧博)
- 9/23 「気候変動問題と東アジア共同体形成は不可分」(小端拓郎)
- 9/20 「破綻国家とテロリストの癒着にどう対処するか」(茂田宏)
- 9/3 「自民党に明日はあるのか」(水野勝康)

2010年度の国際「対話」計画

新年度の「対話」計画としては、すでに1月26-27日の開催が決まっている「日・黒海地域対話」のほか、「日米対話」「日・ASEAN対話」「日中対話」などの諸計画が目白押しである。

このうち「日米対話」については全米アジア研究所(NBR)と、「日・ASEAN対話」についてはASEAN-ISISと予備的交渉が進んでいる。

フォーラム活動日誌(9-11月)

- 9月1日、11月1日、『メルマガ・グローバル・フォーラム』発行
- 9月10日 「日・ASEAN対話:金融・経済危機における日・ASEAN協力」開幕夕食会
- 9月11日 同上「日・ASEAN対話」本会議(SUNDRAM ASEAN事務局次長他103名)、伊藤憲一執行世話人主催懇談夕食会
- 9月12日 同上「日・ASEAN対話」政策提言起草会合(伊藤執行世話人他17名)
- 9月14日 SENDOV駐日ブルガリア大使往訪(村上正泰常任世話人代行)
- 10月1日 『GFJ E-Letter』発行
- 10月2日 KULINICH駐日ウクライナ大使往訪(村上常任世話人代行)
- 10月5日 NEAGU駐日ルーマニア大使往訪(村上常任世話人代行)
- 10月6日 MRKIC駐日セルビア大使往訪(村上常任世話人代行)
- 10月7日 TSAMADOS駐日ギリシャ大使往訪(村上常任世話人代行)
- 11月10日 第219回国際政経懇話会(島田晴雄有識者世話人他27名)

■新規メンバーの紹介(9-12月分)

[経済人メンバー]

田中達郎 三菱東京UFJ銀行副頭取

民主党政権と日本経済の展望

第219回国際政経懇話会は11月10日、島田晴雄当フォーラム有識者世話人・千葉商科大学学長を講師に迎え、「民主党政権と日本経済の展望」と題する講話を聴いた。

島田有識者世話人は、「今後の国際経済のメガトレンドには3つの特徴がある。第1は、パックス・アメリカナの衰退、第2は、『大量規格生産』型産業の退潮、第3は、人口、

環境、エネルギーの重要性の増大だ。その中で、日本の課題は『人口縮小』と『高齢化』に集約される。日本経済にとって重要なのは、グローバル化が不可逆な世界的趨勢下で、『企業が国を選ぶ』という時代が到来しつつあることを理解することだ。日本は、情報インフラの行き届いた国になることを目指す必要がある」と述べた。



講話する島田晴雄有識者世話人(中央)



グローバル・フォーラム会報
2010年冬季号
(第11巻 第1号 通巻第41号)

発行日 2010年1月1日
発行人 伊藤 憲一
編集人 菊池 誉名

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] gfj@gfj.jp
[Fax] 03-3505-4406 [URL] http://www.gfj.jp/